

沖縄「返還」から49年

辺野古に基地をつくらせない

沖縄・奄美・小笠原は、第2次世界大戦の講和後も米軍に占領され続けました。最後まで占領が続いた沖縄の施政権が日本に返されてから、5月15日で49年を迎えます。

戦後、沖縄は米軍に土地を奪われて基地にされ、生活を壊されました。県民が「沖縄返還」に託した願いは、「日本国憲法の下で基本的人権の保障される沖縄」の実現でした。しかし今も沖縄には米軍基地が集中し、事故や犯罪、環境破壊が横行しています。



遺骨が眠る土砂使わないで

県民が幾度も反対を示したにもかかわらず、日本政府は辺野古で新たな米軍基地建設を強行しています。さらに菅政権は、沖縄戦の戦没者の遺骨が眠る本島南部の土砂を掘り出し、基地の埋め立てに投入しようとしています。沖縄戦は、本土決戦引き延ばしの「捨て石」として行われた地上戦で、県民の3人に1人に当たる9万4千人が犠牲となりました。県民の心を何重にも踏みにじる暴挙です。

基地や原発周辺1km、離島の住民を日常的に監視し、「安全保障の機能を阻害する」とみなせばその行為の中止を命じ、命令に従わなければ2年以下の懲役もしくは200万円以下の罰金——戦前の弾圧法のような法案が国会で審議されています。「土地利用規制法」です。基地の密集する沖縄では、ほとんどの住民が監視対象に。やるべきは基地被害から住民を守ることです。危険な悪法を廃案に！

土地利用規制法廃案へ

辺野古新基地建設中止と普天間基地撤去を求める署名にご協力を！

日本平和委員会

2021年5月発行
一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
<http://j-peace.org/>
東京都港区芝1-4-9平和会館4階
TEL03-3451-6377 FAX03-3451-6277